

平成30年度  
青森山田学園事業報告書

学校法人 青森山田学園



## I. 法人本部

### 1. 平成30年度の基本構想

#### (1) 教育理念や使命

ア. 社会の発展に寄与するための健全な心身の発達をはかるとともに、実践力に富む個性的な人間の育成を目指した。

実践的な能力を持つ人材の育成を通じて、地域社会に貢献することが本学の掲げてきた精神である。時代の変化を先取りしつつ、常に新しい取組みに挑戦していくことが求められている。

学園創立 100 周年を区切りに、これからも学園全体が一体となり改革を続けること、そして卒業生、保護者、地域の人々から広く信頼され、愛されていくことが必要である。

時代の変化を確かに読み取り「未来を拓くたくましさを備えた人材」を育てていくことが我々に課された大きな使命である。本学園はこれまでの道のりを踏まえながら、青森県のみならず日本、世界の未来の活性化を担う人材の育成のため、「21 世紀のあるべき教育像」を明確に示し、新しい学園をめざした。

#### イ. 3つの基本方針

##### 1) 地域に根ざした教育

私立の複合的な教育機関という組織的な特徴を生かし、青森県の文化や自然、そして社会の中で青森の特性を生かし、青森の未来を切り拓いていく力を持つ人材を育成することを目指した。

##### 2) 学力と実践力

確かな学力を着実に備え、社会の問題に具体的に応用して解決を図る能力を育て、個々の学力と能力が着実に発揮できるよう実践的な力を育成することを目指した。

##### 3) 体験を重視した文化多様性の教育

地域のさまざまな異なる世界に接し、ボランティア活動などの実践を通して学び、早期の発達段階から好奇心の核を育むべく、多様な文化体験の教育を導入することを目指した。

#### (2) 組織改革計画

学園全体のガバナンス強化を踏まえ、さらなる人事異動と要員調整により、学園の運営体制を確かなものに改革する。人員削減・経費削減・入学者確保に対応する組織改革を行い、学園創立 100 周年を区切りに、運営体制をさらに確かなものに改革を目指した。

また、学園全体が将来の IT 化に向け 3 年から 5 年の間に、インターネットを利用した会議や授業を行うためのハード、ソフト面の強化を進めた。

### 2. 教学に関する計画

#### (1) 志願者・入学者獲得の計画

園児、生徒、学生の募集事業は最優先課題とする。学園各機関の募集状況と在籍者数を的確に把握し、その情報を学園全体で共有し、分析を十分に行い入学者

獲得に努める。就職支援の強化に取り組み、入学者獲得につながる対策をさらに検討した。

また、国際交流センターが中心となり、関係機関と連携しながら留学生確保の取り組みを計画的に進めた。

## (2) 教育内容の向上目標

校訓「誠実」「勤勉」「純潔」「明朗」の実現に努めるとともに、特に中高一貫・高大連携の魅力ある教育を展開する。また、教育環境を計画的に整備し、教育内容をさらに充実させた。

## (3) 教職員研修計画

教職員の資質向上のため、内部の研修会の内容充実と外部研修会へ積極的に参加し、管理職等のレベルアップを図り、さらなる教職員の資質向上に努めた。

## II. 青森大学

### 1. 平成30年度の基本構想

#### (1) 教育理念や使命

青森大学は、地域社会に貢献し、地域とともに生きる大学として、学則第1条第3項に示す、次のような教育理念に基づき、教育研究活動及び社会貢献活動を行った。

(ア) 青森の豊かな自然と文化の中で人間性と確かな教養を培い、社会に役立つ基礎学力、技術及び専門知識を身に付けさせるための実践的な教育を行う。

(イ) 教員と学生の親密なコミュニケーションを通じて、教員が個々の学生の能力を十分に引き出すための親身な指導を行う。

(ウ) 大学の知的財産を活用することにより地域への社会貢献を行うとともに、地域との親密な交流を通じて地域から愛される大学となることを目指す。

本学の使命を達成するため、青森大学のガバナンスの改革・確立が不可欠である。その一環として、ここ数年学長を中心とした大学組織のみで行われてきた「部長会」を発展的に解消し、大学運営に関する積極的な審議の場として学長主催の大学運営会議を平成31年度より設置することとした。大学運営会議では、当面、東京キャンパスにおける新学部等の設置や青森キャンパスにおける施設設備の更なる整備などの大学運営の重要事項について議論することとした。また、大学内における定常的な業務の実施に係る連絡・調整については、副学長が統括する「全学情報交換会」を設置し、大学の教育研究活動に係る全学的資料を作成し、教育研究活動の執行に関して必要な調整等を行うこととした。これらの全学運営に係る会議の設置に加えて、青森山田学園本部に、理事長主導の本部大学協議会を設置して頂き、法人本部からは理事長及び本部長がメンバーとなり、大学からは学長、副学長、学長補佐、学部長がメンバーとなり、大学の経営的側面を含めた運

営及び将来計画等についての審議を行うこととした。

また、平成 24 年度から「青森大学ルネッサンス」を進めており、「大学の運営」「教育研究」「社会貢献」にわたる様々な改革が行われている。改革を途切れなく進めていくため、上記 3 つの教育理念の実現のため、PDCA サイクルなどをより厳密に構築し、教育内容及び方法の改善をさらに進めた。

改革実行のため、大学の理念・方針について全ての教職員が十分に理解し、教職員が一致協力の態度と意欲を持って、大学の魅力の一層の向上を目指し、一体的な改革を進めた。そのため、学長の権限と責任が果たされるよう、青森大学のガバナンスを確立するとともに、学校法人理事会と連携を取り、建設的な関係の構築に努めた。

平成 29 年度に受審した大学機関別認証評価においては、特に学修と教授及び経営・管理と財務などの部分で、認証評価基準を精査し、エビデンスの整備など準備を行った。

また、平成 30 年度からの第 3 期の機関別認証評価では、大学の教育研究活動等を総合的に評価するために、「評価基準」として、「基準 1. 使命・目的」「基準 2. 学生」「基準 3. 教育課程」「基準 4. 教員・職員」「基準 5. 経営・管理と財務」「基準 6. 内部質保証」の 6 つの「基準」が設定されていることから、本学の平成 30 年度の自己点検・評価報告書は、この新たな基準に対応した様式で作成した。

青森大学は、これまで青森県、青森市、平内町等地方公共団体、青森商工会議所、青森県中小企業家同友会等経済団体との連携や高等学校との連携、接続を拡充強化し、地域社会の再生・活性化の拠点としての役割を果たしてきた。そのような地域との連携をさらに進めるとともに、国内外の大学との連携をも推進し、青森市においてはプラットフォーム事業への参加などで大学間ネットワーク組織の活動を実施した。

青森大学は、創立 50 周年を迎えるにあたり、大学 50 周年記念事業を大学中心で実施した。その一環として、学生が中心となって、自由な発想に基づく企画の実施を進めた。

## (2) 組織改革計画

平成 31 年度から本格的に開講する東京キャンパスの準備のため、遠隔授業の環境やカリキュラムの整備を行った。

総合経営学部は、平成 30 年度のコース編成が 2 コース体制であったが、平成 31 年度より 3 コース体制とすることとした。また、総合経営学部は、ここ数年の学生募集が安定していることから、入学定員を 100 名から 110 名とし、コース体制の変更等に鑑み、学部教育の改善を継続的に実施した。

グランドデザインに基づき、平成 29 年度には、「社会学部とソフトウェア情報学部については、平成 30 年度からソフトウェア情報学部を募集停止し、社会学部における社会学士の育成のための教育に必要と考えられるソフトウェア情報関係の教育を充実強化する方向で、文部科学省と事務相談を行いながらカリキュラム案を確定する」としていたが、ソフトウェア情報学部は、21 世紀の社会に最も必要とさ

れる学問分野である情報工学の教育・研究を担っていること、ソフトウェア情報学部の入学者数が増加している現状などに鑑み、学部再編に関しては、現在の4学部体制を継続することを前提として進めることとした。この方向性の実現には、文理融合、インターンシップ・IT教育・遠隔授業等の改善及び充実・普及を円滑に実施することが肝要であるが、平成30年度に東京キャンパスと青森キャンパスとのネットを使用した遠隔授業を開始した。平成31年度から開校する予定の東京キャンパスとのネットを利用した遠隔授業に関しては、新たなシステムを導入して、遠隔授業がより円滑に実施できるよう実務を開始した。平成31年度は教員免許の再課程認定のためカリキュラム変更ができなかったことから、文理・融合及びIT教育の充実については、平成32年度以降のカリキュラム変更で、学部横断型のプログラム等の構築、インターンシップの充実を推進する。

薬学部については、これまで進めてきた教員の若返りが実現に近づいているが、高齢教員の退職などに関する体系的な対処の方策をさらに進める必要がある。若返りに関しては、平成30年度中に3名の若手教員が退職したことから、これまで以上に教員の若返りを図る必要がある。臨床系の教員を採用するなど、薬学教育の更なる充実は進んでいるが、平成31年度は前年度に退職した教員の年齢構成を勘案した採用が必要である。

## 2. 教学に関する計画

### (1) 志願者・入学者獲得の計画

青森大学の持つ、文系・理系がそろった総合大学としての教育目的や特徴を十分に発揮し、青森大学で学ぶことが、未来を切り拓き、社会で役立つ実践力を身に付けることになることをしっかりと理解し共感する生徒が一人でも多く応募するような募集活動を展開してきた。そのために、青森大学の強みであり、目標である「地域とともに生きる大学」、「学生中心の大学」との考え方の広報周知に努め、これまでの学生募集方法に加えて、近隣大学との違いや魅力を明確にした青森大学ならではの学生募集活動の方法を開発し、学生募集目標を達成することを目標としてきた。その一環として開始された学生の就職活動支援に関する体制の整備と教職協働による強力なキャリア教育の強化については、継続して推進し、学生の就職先の質の向上を実現し、学生募集につながった。平成31年度は新たな就職課長の下、教職協働で強力に就職活動支援を推進する。

青森大学の教育が常に変革を続けていることを具体的に発信し、高校生、高校教員、保護者などに広く理解してもらうためには、本部と大学の協働が最も重要な要因の一つである。学生募集活動は、大学の主体性を生かし、学園本部、大学事務・教員が一体となって実施する必要がある。平成30年度の学生募集は、学生募集のための教育内容、教育の成果、高大連携など、平成29年度の学生募集計画を基本としてきたが、特に薬学部の学生募集を改善することに注力して展開してきた。薬学部におけるここ数年の入学者数は危機的な状況であり、薬学部の学生募集に特化した体制の整備を進めてきた。

学生募集活動に関しては、総合経営学部、社会学部及びソフトウェア情報学部は、

受験生の母集団が大きく変わらないことから、学部独自の教育内容をアピールしながらも共通のプラットフォームで一般受験生の募集を推進してきた。理系学部である薬学部に関しては、他学部と受験生の母集団が異なることもあり、薬剤師の使命や薬学部の魅力を前面に押し出した募集活動を展開した。学生募集における平成30年度の問題点は、奨学金が高額となっていることである。平成31年度には、奨学金を抑制しつつ、平成31年度以上の入学生の確保が必要であることから、学生募集体制及び活動の充実が必須である。

スポーツ・文芸特待生募集については、平成29年度の実績が上がっていることから、基本的には前年度の戦略を踏襲し、十分な人数の新入生を確保することはできたが、奨学金を抑えることは必要である。青森山田高校を対象とした募集活動は、定期的に高校の授業の一環として大学教員を高校に派遣する、青森山田高校の生徒に大学のキャンパスを体験してもらうイベントを企画するなど、積極的に青森山田高校との連携・接続を実施することなどにより強化した。昨年度から留学生の受入れ人数を増やしているが、平成31年度へ向けて、より質の高い留学生の獲得に向けて活動を展開した。編入学・社会人入学に対する募集も担当者を設け積極的に進めた。学生募集に関する広報内容（広報に流す教育成果や教育動向など）は、各学部で実施している様々な教育活動をより頻繁にメディアが取り上げるよう教職協働のチームで展開した。オープンキャンパスは、従来以上に学生が参画した企画を行うために、普段から教員と学生のチームなどを構築するなどの活動を開始しているが、それらの取組みをさらに強化した。

高校訪問については、訪問高校出身学生の情報を蓄積し、継続的に次の訪問へ活用することが必要である。卒業生情報として、成績、出欠状況、普段の学修・生活態度などに加え、就職の方向性など、細部にわたりきめ細かに情報を蓄積し、常に提供できる状態とするため、教務・学生、就職課などからの学生情報の一元管理を進めた。

上記の活動に加えて、大学教員が高等学校の教育活動に協力する体制及び環境をさらに強力に推進した。これは、青森山田高校や青森中央高校などで本学の教員が高校生に直接授業をしている高校からの受験生が増える傾向があることから、教員の大きな役割の一つとして、高等学校の教育に参画することを推進してきた。

なお、こうした学生募集を担う事務組織は、これまでの入試課に加えて新たに広報課を立ち上げ、これまでの広報ツールをより機能的に活用する計画を立案するとともに、学内外への情報発信を強化した。平成31年度からは、この広報機能を法人本部の企画広報室に移行し、学園と連携する形で充実化する予定である。

## (2) 教育内容の向上目標

平成24年8月の中央教育審議会答申による、学士課程教育の質的転換を念頭に、既存の教養科目を見直し、体系的に基礎教育を行う教育課程へ再編した「青森大学基礎スタンダード」を平成25年度に全学的にスタートさせ、本学の教養教育の質的転換を進展させてきた。

また、平成26年12月の中央教育審議会答申による高大接続の改革に沿って、平

成 30 年度は、各学部の専門科目についても精査を行い、平成 31 年度へ向けて合理的、体系的な教育課程への再編計画を推進する予定であったが、教員免許の再課程認定の届け出を行ったため、届け出内容である平成 31 年度の教育課程変更はできなかった。そのため、教育課程の変更は平成 32 年度（2020 年度）にお持ち越された。シラバス作成要領に基づいてシラバスを作成されているかなどを調査し、学生の到達目標の達成度、授業方法、授業計画及び授業時間外の学習や成績評価の基準等の事項などについて点検を行い、本学の教育の質的転換が成果を上げていることを確認するとともに、改善を推進した。特に、「学生が何を学び身に付けるか」という視点に立って、教育方法にアクティブ・ラーニングを取り入れるなどの改善策を促進し、教育効果を高めてきた。

青森大学ルネッサンスに基づく教学改革の継続的推進は、これまでの基礎スタンダードの改善に加えて、専門科目の体系的な整理・再構築を目指すものである。専門科目の体系的な整理は、学部教育の改革に連動させる方向で実施している。平成 30 年度のカリキュラム策定は、平成 27 年度に事前相談に提出した「現代社会構想学部」のカリキュラムを基に、総合経営学部、社会学部及びソフトウェア情報学部の学生が共通で学ぶことができる専門科目群や学部横断型のプログラム構築の考え方が実現できるように計画した。共通の専門科目群などで構築されるプログラムについては、平成 30 年度にカリキュラムを変更せず、複数の専門科目を学部横断型科目群と位置づけ、総合経営学部と社会学部の間で平成 31 年度より開始できるようにしている。学部横断型のプログラムは、例えば、公務員を目指す公務員講座、21 世紀を生きる若者として必要とされる IT を学ぶためのプログラムなど、将来を見据え、学部の垣根を越えて履修できる方向に基づいて推進していく。薬学部は、現在実施しているコアカリキュラムの考え方にに基づき、教育の質の一層の向上に努めてきた。

学生が納得できる就職を実現できるよう、キャリア特別実習の充実を図り、キャリアデザインや就職活動実践演習の教育内容をより実践的に改善するとともに、授業外の就職サポートプログラムの充実に向けて取り組んでいる。また、現在行われている各種資格・免許の取得に関する教育についても継続して取り組んでいる。さらに、公務員志望者のための特別プログラムの充実を図り、学生募集へとつながるよう高等学校などへの広報を充実させている。

また、このところ毎年獲得数を伸ばしている科学研究費補助金や学長裁量経費による青森大学教育研究プロジェクトなどの成果に見られるように、急激に向上している本学の研究能力をさらに充実させ、本学の研究成果を広く青森地域及び全国に向けて発信し、青森地域の高等教育機関の研究の中心的役割を担えるよう、教員の研究活動の充実、活性化を図っている。その結果、平成 31 年度には 2 件の科学研究費補助金が新規採択された。

### (3) 教職員研修計画

これまで実施してきた、年 2 回の教職員研修会の充実を図り、全学的な FD 及



びSDに関する動向を共有し、意識改革に積極的に取り組んでいる。また、FD及びSDともに学外における研修の機会を活用し、教職員を研究会などに派遣し、その成果を教職員間で共有するとともに、教職協働の改善に努める。特に、各科目のアクティブ・ラーニングを一段と推進するために、学内の授業公開や授業実践研究ワークショップを企画し、多くの教職員が参加したことから、大学全体の教育力の向上に役立った。平成31年度は更に多くの教職員が参加できるような環境を整える必要がある。

また、これまでの「FD委員会」を「FD・SD委員会」と改め、教員のみならず職員の資質向上も全学的に取り組んでいく体制を整えた。さらに冬季教職員研修会の実施時期をこれまでの12月から2月に変更し、年度を総括する意義を強めることにより、次年度に向けての課題を明確化することとした。

### Ⅲ. 青森山田高等学校 全日制課程

#### 1 平成30年度の基本構想

##### (1) 教育理念や使命

中高一貫教育の推進を基に校訓（誠実、勤勉、純潔、明朗）の実現に努力し、社会の発展に寄与すべく健全な心身の発達を図るとともに実践力に富む個性豊かな人格の育成、および品性の陶冶を中心に教師と生徒の人間的交流を図れるべく努力する。そのために4つの重点目標を掲げる。

- 1) 学力の向上をはかり、個別指導に重点を置く
- 2) 生活態度を厳正にし、かつ人間味のある教師と生徒の交流を図る
- 3) クラブ活動、部活動を通して、青年期の精神生活の確立を会得させる
- 4) 生徒会活動に於いて社会性を持たせ、人間的尊重の精神を養う

##### (2) 組織改革計画

###### 1) 管理者として

- ・基本姿勢、使命感と責任感

「教育者としての使命感」をベースに持ち、学校に期待される目的・目標を達成する「学校経営者」としてのリーダーシップを発揮。

- ・学校ビジョン構築

学校教育目標の実現に向け、学校の中期・短期（年度）双方の視点から、取り組むべき重点事項を明確にし、実現のシナリオを描く。

- ・環境づくり

学校教育目標の実現に向け、学校内外の「人的資源」「物的資源」「資金的資源」「情報的資源」「ネットワーク資源」を最も効果的に活かすため、学校の組織づくりや環境整備を行う。

- ・人材育成

学校の各種活動を通じて、自らと教職員の能力を向上させ、人としての成長を促進させる。

・外部折衝

学校の各種活動を効果的・効率的に進めるため、学校外部に理解を求め、外部とのネットワークを構築する。

2) 教職員に望むこと

- ・教育は人なり。学校教育の成否は教職員の資質能力にかかっている。したがって、教職員は専門的な知識を深め、指導力を高めてより工夫された教育活動を展開できるよう、日々自己研鑽に努める。
- ・大所高所から物事を考えられる教職員であれ  
    (「木を見て森を見ず」ではダメ!)
- ・生徒の目線に立って観察する洞察力をもつ教職員であれ
- ・厳しくあり優しさのある教職員であれ(理解と迎合の区別)
- ・積極的な実践力とたくましい行動力を持つ、熱い信頼される教職員であれ「教員は親ではない、兄姉ではない、友達ではない、ガキ大将ではない、でも、そのすべてでありたい。」

3) 基本的な経営の指針

・日常的な実践

- 3Cの精神 ①チャンス(chance) …… 好機到来と判断されたら  
          ②チャレンジ(challenge) …… 果敢に挑戦するようにし  
          ③チェンジ(change) …… 改善変革を大胆に図る

・職場のモラルの向上

どういう職場であれ、一番大切なことは「モラルの向上」である。それを支える大黒柱は、人間である。「和を以て貴しとなす。」

・教育活動の推進

ア「今まではこうした」とか「去年まではこうだった」とかは禁句にして、「何を」「どう」やらなければならないかを明確にしていく。

イ 職場を構成する一人ひとりが次の4つのものを持ち合わせる努力をすることが大事である。

活力・生命力(Vitality)      知識・技術(Speciality)  
独創・創造(Originality)    個性・持ち味(Personality)

※「個性・持ち味(Personality)」が職場のモラル向上と直結する。

ウ 教育課程の一連の推進の中で「計画」・「実施」・「評価」とよく言われる。しかしこれに加えて大事なのが教育課程全体を見て、次年度には何をどう「改善」していくかということを確認していく必要がある。

4) 教師の共通理解、共通指導

・生きがい、居がいのある、明日が待たれる学校

まず、教職員間の関係が温かいものでなければならない。そのためには、例外を除いて情報を共有することを原則とする。

・授業の工夫

時間の工夫、発問の工夫、問題解決的な学習の工夫に心がけ、授業のプロ・学級

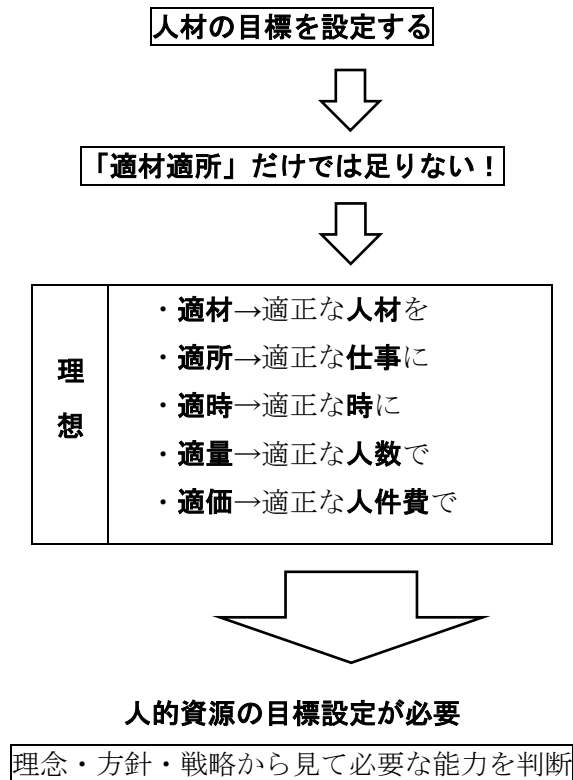
経営のプロ・生徒指導のプロとして活躍できる力量をつけられるよう日々教材研究等に努める。

・教職員と生徒の共通目標

- ① …… 明るい笑顔、元気な挨拶
- ② …… 追い求める、夢と感動
- ③ …… 燃える情熱、チャレンジ精神
- ④ …… 立派な環境、理想の実現
- ⑤ …… 優しい先輩、教職員
- ⑥ …… 待ち遠しい、明日の<sup>あした</sup>出会い
- ⑦ …… 大丈夫、「出口の保障、笑顔の卒業」

5) 検討の方向

教育組織の見直し、そのあり方について引き続き検討する。



2 教学に関する計画

(1) 志願者・入学者獲得の計画

中学校段階での進路指導は、「入れる高校から入りたい高校へ」の転換がなされてきた。しかし、残念ながら未だに輪切り状態が続いており、このことが学校の伝統、過去からの実績、学校への信頼・協力ということにつながっている。

子どもを「青森山田に預けて良かった!」と言われるよう一人でも多く、本校へ入学させ、出口の保障ができるよう教職員一同、一枚岩になって共通理解、共通指導、共通行動をとっていく必要がある。

① 獲得の手立て

- ・各中学校における生徒対象学校説明会の実施、および校長等を対象とした県内 3 地区の学校説明会を実施
- ・生徒・保護者対象の青森山田高校進路相談会の実施（11月下旬）
- ・A日程入学者選抜終了後、東青地区各中学校への本校教職員の個別訪問による募集活動の実施
- ・保護者への働きかけ、教員同士の情報交換および各中学校との密接な情報交換
- ・ホームページでの教育活動の配信

② 特進コースとしての働きかけ

- ・小学校 5・6 年生対象の勉強会の実施（夏休み～12月）
- ・小学校 6 年生対象の説明会、相談会（10月）
- ・中学校 3 年生対象の高校受験に向けた入試対策、数学・英語の勉強会実施（10月～12月）
- ・中学校 3 年生の保護者対象説明会（11月）
- ・推薦入試での本校特進コース合格者に対する先取り勉強会の実施（2月～3月）
- ・海外語学研修（3月）中学校は韓国ソウル、高校生はフィリピンセブ島

(2) 教育内容の向上目標

学習指導要領、社会のニーズ等に即したカリキュラムを作成し、各教科、分掌等の効果的運営を図る

(3) 教職員研修計画

①目的

- ・基礎学力の定着と活気ある授業の推進に努め、担当教科のみならず、分掌、学年と密接に連携し生徒の確かな学力向上を図る。
- ・日頃から生徒の学力状況を把握し、個に応じた個を生かす授業、生徒の学習意欲を引き出す授業を目指す。

②研修内容

校内研修 1)授業研究 …… 研究発表、授業公開

2)職員研修 …… 12月下旬、教職員校内研修

校外研修 1)総合学校教育センター等の研修

2)青森県高等学校教育研究会

3)私学研修 …… 青森県私学研修会、全国私学研修会

4)先進校視察 …… 学力向上の参考となる学校視察

5)分掌・教科等の諸研修会……全国・東北・県大会等

6)その他 …… 自己の専門性を高め、教育活動の充実を図る

有職者による教職員への講話実施

## IV. 青森山田高等学校 通信制課程 青森校

### 1. 平成30年度の基本構想

#### (1) 教育理念や使命

通信制課程は、就業等により全日制高校に進学できない青年に後期中等教育の機会を提供するものとして制度化され、高校教育の普及と「教育の機会均等の理念を実現」する上で、大きな役割を果たしてきた。近年では、勤労青年のための教育機関としての役割だけでなく、不登校・中途退学経験者等への「学び直し」の機会の提供や、困難を抱える生徒の自立支援等の多様な学びのニーズへの「受け皿」としての役割も果たしており、多様な学習スタイルを可能とする通信制課程の役割はますます重要になっている。平成10年に本県初の広域通信制課程高等学校として開校以来、早いもので22年経過した。しかし、近年において、社会の急激な変化に伴い、全日制課程からの進路変更等に伴う「転入学・編入学」や過去に高等学校教育を受ける機会がなかった者、通信制課程として「学びたいという者」等、従来からの役割だけでなく多様な学びのニーズに対応する役割に貢献している。このような多様な学習者に対して、「自ら学び・自ら考え」主体的に判断し行動できる「生きる力」を身に付けさせるために、次のような方向で教職員の共通理解、共通行動を図った。

- 1) 学習者の「能力・適性・希望」等に応じた学習内容の改善や弾力化・指導方法の工夫、授業開設形態の多様化などの改革を進め創意工夫の教育を行った。
- 2) 学習者の幅広いニーズの応えるために通信制課程の特性を活かした効果的な学習プログラムのモデル構築や支援を要する生徒等の学習ニーズの応じた指導方法を確立し、普及を図る取り組みとして、高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実、通信教育の振興に取り組みを行った。

#### (2) 組織改革計画

##### ・環境づくり

未来を担う子どもたちが将来への希望や生きる喜びを実感できるよう、青森校において、豊かな人間性、社会性を身に付け、「人づくり」を推進するとともに、安心して学ぶことができる教育環境の充実を継続していく。

##### ・通信教育の役割

これまで「働きながら学ぶ教育」の機会を青少年期に提供する役割を担ってきた通信教育は、生徒の若年化が進む中で勤労青年のための教育機関としての役割だけではなく、多様な学習の要望に対応する役割を目指している。

##### ・進路指導

生徒一人一人の能力や個性・適正に応じた「心に届く教育」を実践し、個々の進路目標の実現を図り、人間としての「あり方」や「生き方」に関する教育を重視し、様々な個性を持つ集団相互の出会いを通して、豊かな「人間性と社会性」の能力や可能性を最大限に伸ばしていくよう努めている。

### 2. 教学に関する計画

#### (1) 志願者・入学者獲得の計画

入学者の特性を踏まえ、随時入学を認めているため在学者数は月毎変動している。

青森校の特色である「きめ細かい指導」を実践しているところもあり、様々な事情で高校へ進学しなかった方など、かつての勤労青少年の「学び場」としての役割から、義務教育段階からさまざまな課題を抱えながらも、高校での学びを求めて進学していく「生徒たちに学習機会を提供する場」へと大きく役割を変化させてきた。中学校卒業の方、いろいろな事情で高校へ進学しなかった方、高校中途退学した方、休学した方、社会人の方などについても、進路選択の一つとして幅広くアピールを進めていく。

・獲得の手立て

- 1) 青森地区及び東青地区管内の中学校において、学校説明会を実施。また、青森地区の中学校における学年主任などの個別面談訪問による募集活動につなげていく。
- 2) 通信制課程は県内に青森校以外に五所川原市に一校、八戸市に一校と、青森市に一校あるが、すべて「単位制」の高校である。青森校は全日制課程と同じく3年間の「学年制」である。学年全員が同じ教科を履修し、進級卒業の時期が明確である。全日制課程からの進路変更等に伴う「転入学」・「編入学」や過去に「高等学校教育」を受ける機会がなかった方々など親身な指導を実施している。
- 3) ホームページでの「教育活動の配信」を考えていく。

(2) 教育内容の向上目標

ガイダンスや面談の充実、進路における生徒一人ひとりの考えや悩みを十分に汲み取り、生徒が主体的に自らの進路を決定できるような指導・援助を実施している。

学習内容を確実に身に付けさせるために習熟の程度に応じた指導をしている。特別活動・体験活動等を通して社会性を身に付けさせる指導の充実。「生徒のニーズ」や「ライフスタイル」に対応した「生徒の興味」・「関心」・「進路目標」等に応じるために、多くの講座を開講している。

また、青森大学キャンパスの施設設備を活用して、「特別講座」や「集中講義」によるトップレベルの授業展開を進めており、学習意識の向上に努めている。

そして、関連校の青森大学、自動車専攻科、青森県へアアチスト専門学校への進路指導説明会では、「推薦入学制度」、「授業料減額制度」や「経済的就学困難者」に対する「奨学生制度」を活用し優先的に入学できるシステムを確立している。その結果、まだまだ志願(進学)者は少ないが、教育内容の充実もあり進学(合格)数の実績に繋がっている。

・学園関係「進学先」は次のとおりになっている。(過去「5年間の実績」)

年度	青森大学/進学数/学部(内訳数)		自動車 専攻科	青森県ヘアアーティスト 専門学校	計	
平成 26 年	6	薬学部	0	0	3	9
		ソフトウェア情報学部	0			
		総合経営学部	5			
		社会学部	1			
平成 27 年	6	薬学部	0	2	0	8
		ソフトウェア情報学部	1			
		総合経営学部	1			
		社会学部	4			
平成 28 年	6	薬学部	1	2	0	8
		ソフトウェア情報学部	1			
		総合経営学部	2			
		社会学部	2			
平成 29 年	青森校:8	薬学部	1	0	2	13
		ソフトウェア情報学部	0			
		総合経営学部	6			
		社会学部	1			
	札幌校:3	ソフトウェア情報学部	3	0	0	
平成 30 年	青森校:7	薬学部	2	1	1	11
		ソフトウェア情報学部	3			
		総合経営学部	1			
		社会学部	1			
	札幌校:2	総合経営学部	1	0	0	
		社会学部	1			

### (3) 教職員研修計画

#### 1) 目的

青森校、札幌校と密接に連携し生徒の学力状況を把握し、個々の応じた個を生かした授業・生徒の学習意欲を引き出す授業と生徒の確かな学力向上を図る。

また、札幌校との「教育課程の編成や運用」を作成し、共通理解・共通行動・共通指導による教育を目指している。

#### 2) 研修内容

- ・校内研修 12月中・下旬 教職員研修会に参加
- ・校外研修 ①東北高等学校定通信制教育振興大会研究協議会への参加  
②全国高等学校定通信制教育振興大会研究協議会への参加  
③青森県高等学校定通信制研究大会 への参加  
④青森県私学研修会への参加  
⑤広域通信制高校視察

自己の専門性を高め、教育の充実を図るため、学習スタイルの教育課程「最新のICT教育、Web学習システム、コンテンツ」、「インターネットのWeb通信講座授業(距離と時間を越えた学習)」などの研修会等に参加した。

## V. 青森山田高等学校 通信制課程 札幌校

### 1. 平成30年度の基本構想

#### (1) 教育理念や使命

青森校と同様であるが、教育基本法の「教育の機会均等」の趣旨に沿い、全日制高校とは異なり、通常的に通学できない勤労青少年・高校中退者等に「新たに学ぶ機会」を与えるために開校した広域通信制課程高校である。

不登校や引きこもりで苦しんでいる生徒など、困難な時代を生き抜くことのできる人材を育てることを目指して、「人間力」と「実践力」を掲げ、指導を推進している。全日制課程の認知度は高く評価を受けているが、通信制札幌校は札幌市内及び近郊の中学校等でも認知度はまだ低く、存在を高めることに重点を置いている。

#### (2) 組織改革計画

北海学園大学及び北海学園札幌高等学校の非常勤講師の先生方による協力やサポートにより親身の指導に努めた。

### 2. 教学に関する計画

#### (1) 志願者・入学者獲得の計画

札幌市内及び近郊の中学校、教育相談センターを訪問して新入生の募集に努めた。不登校・高校中退者のための合同説明会へ参加、個別相談や札幌校の認知度を高めるとともに、新入学生と全日制課程・定時制課程からの転入学・編入学生を積極的に受け入れるなど生徒の確保に努めた。

#### (2) 教育内容の向上目標



通信制課程は全日制課程と同じく3年間の学年制である。協力校の北海学園札幌高等学校の協力のもと、通信教育の充実した教育内容で指導している。また、校外学習と札幌市内の施設見学等を積極的に取り入れている。在籍者に対する進路対策として、早期の三者面談の実施も行っている。教育課程に基づいた通信課程の充実を図った結果、青森大学総合経営学部に1名、社会学部1名進学を実現した。

### (3) 教職員研修計画

- ・教職員の共通理解、共通指導を推進させた。
- ・青森校との研鑽や情報交換を実施し、青森校の施設及び現地見学を計画している。

## VI. 自動車科専攻科

### 1. 平成30年度の基本構想

#### (1) 教育理念や使命

- ・資格（国家二級自動車整備士）取得確保を最大の目標とした教育。  
全国的に整備士不足が問われており、国土交通省運輸局あげての人材育成を掲げており、それに伴い地元業界の整備士需要が多く、その育成は地域の活性化の原動力となる。
- ・女子整備士養成も業界のニーズとして求められており、女子学生の入学を推進する。

【結果】・資格取得については全員合格がかなわなかったが、1名の家事従事者以外は全員整備士として採用された。

- ・平成31年度の女子学生は、2名(留学生を含む)の入学者が決定している。

#### (2) 組織改革計画

- ・女子学生の対応を兼ねた若い教員と、資格を持ち分野に精通した教員を新たに採用していきたいと考えている。

【結果】・事務的業務は緩和されている。非常勤講師の採用により授業時間が少し緩和されたが、やはり教員の高齢化は否めない。将来的に若い人材の登用が不可欠である。(希望者有)

### 2. 教学に関する計画

#### (1) 志願者・入学者獲得の計画

- ・近年の若年層の自動車への関心度の希薄は否めないが、特に、市内の生徒の入学者の増加を図る。
- ・留学生についても、引き続き学園東京事務所と連携を図り推進していきたい。

【結果】・オープンキャンパスの実施（2回）

《参加者》1回目：24名（他校7、内女子4）

2回目：20名（他校0）

・入学者内訳

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
入学者	33名 (女子3名)	32名 (女子4名)	19名 (女子1名) ※留学生2名	20名 (女子2名) ※留学生1名

(2) 教育内容の向上目標

- ・教育理念に沿った資格（国家二級自動車整備士）全員取得の構築を図るため、早期の指導展開を進める。また、在学中に取得できる資格に多く挑戦させ取得させる。（中古車査定士、損害保険募集人資格など）
- ・自動車のコンピュータ化により、実習車や教材、並びに機械・機器を現場社会に対応できるよう整備し、各自動車ディーラーによる新機構の技術講習会等を積極的に実施する。

【結果】・学生は他の資格も数多く取得し、専攻科ならではの特性を生かした。

- ・一昨年から実施した「教養」の授業は、学生に好評であり、ディーラーからも評判が高い。
- ・企業合同説明会を本校にて実施（2月7日）＝18社参加
- ・ディーラー技術講習会を8回実施

回数	月日	講習会名
第1回	5月17日	スズキフレッシュマンセミナー
第2回	5月18日	マツダ春の技術セミナー
第3回	6月12日	マツダ全国サービス技術競技大会見学
第4回	10月25日	マツダ試乗・技術講習会
第5回	10月26日	三菱技術講習会
第6回	11月16日	青森ダイハツサービスツール技術講習会
第7回	11月20日	UDトラックス技術講習会
第8回	1月16日	三菱ふそう技術講習会

- ・いすゞ自動車東北(株)より、トラック(エルフ)の寄贈、日産プリンス青森販売(株)よりリーフ(電気自動車)教材車寄贈。
- ・(株)青森ダイハツモータースより、実習用教材(デファレンシャルギヤ2基)寄贈。
- ・今年度からインターンシップを開催。10月29日～11月2日(5日間) 実働3日間の体験であるが、実社会における自動車産業(自動車整備業)の役割を体験するとともに、自動車に関する知識の高揚が高まった。

(3) 教職員研修計画

- ・年2回（夏・冬）の校内研修を図り生徒募集・教材研究・学校運営に積極的に参加する体制を確立する。

【結果】・予定通りの研修会を実施し、問題解決を図り、来年度の展望や体制も確認した。

## VII. 青森山田中学校

### 1 平成30年度の基本構想

#### (1) 教育理念や使命

青森山田中学校は、開校17年とまだ浅い歴史の中で、数々の変化・展開を遂げ、今後も時代の流れに沿った学校運営を含め、あらゆる状況に対し適切に対応していかねばならない。「勉学」そして「スポーツ系」「文化系」などの指導・教育環境の充実化を図り、さらに高校との連携をより強固にし、質の高い生徒を高校に送り繋げていくことを使命とする。地域はもちろんのこと、全国から期待される学校にしておくために、「学業面」の強化は避けて通れない時代になっている。特進コース、普通コースの両コースにおける学業主体の教育理念を構築し、市内、県内における成績平均を大きく上回り、県下トップクラスの成績実績を目指し、「文武両道」を高いレベルで実践した。

#### (2) 組織改革計画

教育機関における組織改革は、「授業のクオリティーアップ」「学習時間の確保」「生徒募集の戦略と実践」「教員の意識改革」「生徒への手厚い指導、心配り」を積極的に実践した。

平成28年度より上記に述べた実践テーマを組織改革の第一歩として推し進め、現在は中学教職員が「結束力」「イノベーション思考」をより意識するようになり、大きく前進した。組織内の意識、行動の前向きな変化が見られた。

### 2 教学に関する計画

#### (1) 志願者・入学者獲得の計画

漠然とした計画や戦略、職員の意識改革もないまま、入学者獲得を図れるほど甘いものではない。現在在籍している生徒たちへの「手厚い指導」「期待に応えるための努力」「学業実績の向上・評価」などが手薄になっていては何の成果も上げられないし、持続しない。そういう意味で、中学は結果として納得できるものを数字として示すことができた。入学定員数は60名だが、特進コース17名・普通コース57名の合計74名の入学者を獲得した。来年度以降入学定員数を80名に変更することも視野に入れる。このことが高校入学者400名を達成するために不可欠であると考えられる。

#### (2) 教育内容の向上目標

各教科における教材研究の取り組み方を改善させた結果、授業内容の質が向上した。全校生徒に各種検定試験を積極的にチャレンジさせることと中長期休業期間を利用した「部活動勉強会」を継続して実施した。この取り組みの結果、生徒は学習習慣が一層身につく、検定試験の合格率もアップし学習に対する達成感と充実感を得ることができた。これが目標達成の第一歩である。

#### (3) 教職員研修計画

教職員研修会にて、青森山田学園の教職員がどのような姿勢、態度で臨み、どのようなスキルを獲得できるのかを念頭に研修内容や講師を入念に吟味した。また、職員朝会等において「向上意欲の低い職員」「取り組みの甘い職員」「協力意識の低い職員」

の意識改革を行い全教職員のスキルアップを図ったことで、「チーム中学校」として一体となった。

## VIII. 青森県ヘアアーティスト専門学校

### 1 平成30年度の基本構想

#### (1) 教育理念や使命

本校の教育理念や使命達成に向け、学生が社会人としての教養と近代的感覚を身につけるとともに、専門性を生かし社会に貢献できる職業人となれるよう、全教職員が一丸となって学生の指導に取り組んだ。

#### (2) 組織改革計画

校長及び顧問が中心となって学生募集を行うとともに、学園創立100周年を意識したホームページの更新や学校案内の作成等が広報部門強化の一助となったことなどにより、本校志願者の獲得に一定の成果があった。

### 2 教学に関する計画

#### (1) 志願者・入学者獲得の計画

① 進学相談会（会場・高校）の参加、学校情報の積極的発信ホテル等を会場として開催されるガイダンスは弘前市内を中心に参加し、各高校等で開催されるガイダンスは中弘南黒地区及び西北五地区を中心に参加し、本校の情報発信に努めた。進学相談会等で本校の説明を受けた人数は240名を数えた。

② 高校訪問の実施重点地区としている中弘南黒・西北五・東青地区の各高校は4～5回程度訪問し、秋田県北地区の各高校は2～3回程度訪問するなど、本校の教育内容等のPRに努めた。

③ オープンキャンパスの内容充実及び参加者増に向けた活動強化オープンキャンパスは6月及び8月の2回開催し、延べ101名の参加を得た。（秋田県北からは3名参加）なお、高校3年生で参加した40名（実人数）のうち34名が本校に入学しており、その割合は85%と極めて高い数値となった。

④ ヘアモードショーと学校祭のPR強化青森山田学園創立100周年記念事業にも位置づけられたヘアモードショーは、昨年を上回る200名超の参加があり好評を博した。また、学校祭も昨年を若干上回る90名程の参加があったが、各高校等への案内が遅れるなど、広報活動には課題が残った。

⑤ 進学情報媒体（進学ネット・情報誌等）の活用進学情報媒体を通じた資料請求は毎年500件以上あり、本校にとって重要なツールとなっていることから、今後も学生募集や広報活動には情報媒体を積極的に活用したい。

⑥ イチコイユニットサロンとの連携強化による理美容の魅力発信イチコイユニット事業は4年目を迎え、サロン7社（弘前市内5社、青森市内2社）のスタッフが就職セミナーや大会出場選手への技術指導、シャンプー授業での指導などで協力していただき、大いなる成果があった。

また、3月25日（月）に開催された「恋'sコレクション」（主催：一般社団法人一生美容に恋する会）は、昨年を下回る35名の参加にとどまったが、参加者には大変好評であった。参加者に理美容の魅力を発信するこのイベントは、本校志望者の獲得

にも良い影響をもたらしていることから、今後も業界との連携を密にし、理美容の魅力発信に努めながら本校志望者の獲得につなげていきたい。

⑦ 職業訓練給付金制度の活用による社会人志願者の獲得今年度は、同制度活用による入学志願者はなかったが、県が新たにはじめた「長期高度人材育成コース」を活用した社会人志願者が5名（理容科2名、美容科3名）入学した。

高校生が年々減少していることから、社会人志願者の獲得は学校の健全運営のためにも有効であり、今後も両制度の周知を徹底することにより、社会人志願者のさらなる獲得に努めていきたい。

⑧ 校外イベント、ボランティア活動への積極参加による学校PR強化校外イベントは、2年生がファッション甲子園やひろさきハロウィン等の各イベントに審査員として参加した。

また、ボランティア活動として、介護老人保健施設サンタハウス弘前を訪問サービスしたり、おしごと体験キッズハローワークに出展するなどして好評を博した。ボランティア活動は、学生を成長させる場であることはもとより、学校をPRし学校評価を向上させることにもつながることから、今後も積極的に取り組んでいきたい。

## (2) 教育内容の向上

### ① 国家試験全員合格に向けた基本技術及び基礎学力の向上

国家試験の全員合格を目指し、実技及び筆記の強化週間を設けるなど姿勢の確立や強化対策の見直し（過去問の分析、自己採点による不得意分野の洗い出し等）などが必要である。

### ② 基本的マナーの確立と学生個々の発想、個性、創造性の伸長

学生が将来、職業人として活躍できるよう社会人としての基本的マナーを確立させるとともに、個々人の発想力・個性・創造力を伸長させるよう教育活動を行っている。

### ③ 資格取得対策の強化

学生が将来、多様な知識と技術を有する理美容師として活躍できるよう、本校ではネイル、メイク、着付け等の各種資格取得を推奨し、その対策を講じている。

今年度は、SBS ネイルディレクター1級に過去最高の10名が認定されたほか、2年連続でAFT色彩検定1級に1名が合格した。

## (3) 教職員研修計画

### ① 東北地区教員研修会への参加

教職員の資質向上のため、9月30日（日）～10月1日（月）の2日間、仙台市「TKP ガーデンシティ仙台」で開催された「平成30年度東北地区理容美容学校教職員研修会」に参加した。

### ② 外部講師による集中講義への参加

外部講師によるネイル（6月、10月）及びメイク（8月）の集中講義を受講した。

### ③ 校内研修及び研究（参観）授業の実施

5月23日（水）に参観授業を実施するとともに、下記の通りイチコユニットサロンオーナーやスタッフとのディスカッションを行った。

4月 2日（月）「恋'sコレクションの反省及びIMSについて」

- 5月 7日 (月)「シャンプー授業について 他」
- 7月 5日 (木)「シャンプー授業の振り返り 他」
- 10月 4日 (木)「出前授業、現場実習について 他」
- 11月14日 (水)「恋'sコレクションについて」
- 2月 7日 (木)「恋'sコレクションについて 他」
- 3月14日 (木)「恋'sコレクションリハーサル 他」

## IX. 呉竹幼稚園

### 1 平成30年度の基本構想

#### (1) 教育理念や使命

- ・友達や先生方と一緒に遊んだり、サントレや外国人講師との英語活動、自然とふれ合ったりする活動をとおして、豊かな感性や言葉、文字への関心が高まり主体性が身に付いてきた。
- ・青森山田学園の環境を生かした様々な活動や地域行事への参加をとおして、多様な人とふれ合ったり、何かに挑戦して頑張ったりする体験をし、健康な体や思いやりなど心身のバランスのとれた子どもが育ってきた。

#### (2) 組織改革計画

- ・支援員が配属されたことにより、対象園児はもとより年少組の他の園児に対応する時間を確保することにつながった。しかし、年々特別な配慮を必要とする園児やグレーゾーンと思われる園児が増加する傾向にあり今後の課題である。
- ・教職員の役割を、年毎の順番にこだわらず経験や得意分野を生かしたり、互いに認め合う雰囲気づくりに努めるよう工夫したりすることで、一人一人のやる気や成果が感じられる組織になってきている。

### 2 教学に関する計画

#### (1) 志願者・入学者獲得の計画

- ・ホームページ「すくすく日記」(園生活紹介ページ)の更新を随時行い、リアルタイムで幼稚園の今を伝えることができた。幼稚園への問い合わせのほとんどは、ホームページ閲覧によるものであった。
- ・未就園児教室への参加をとおして、呉竹幼稚園の特色を理解することができたり、入園後の活動への不安を取り除いたりする効果があった。
- ・地域行事への参加や、地域の方を園の行事に招待することをとおして、呉竹幼稚園の存在や取組を知ってもらうことができた。

#### (2) 教育内容の向上目標

- ・新教育要領のスタートや東北地区私立幼稚園教員研修大会の開催準備のため、新たな視点から教育活動や行事づくりに努めたことにより、教員の意識が変わってきた。
- ・特色ある体験活動(サッカー、スキー、もちつき会)において、外部人材の活かし方を工夫したり、事前の打ち合わせに時間を掛けたりすることで、内容がより充実し成果も大きくなった。

#### (3) 教職員研修計画

- ・夏季及び冬季の教員研修会において講演を聞いたり演習を行ったりしたことは、教師としての専門性向上に役立った。
- ・一関市で開催された東北私立幼稚園教員研修会に全員参加できたことは、自園や自分の教育を見つめ直すことや、共通の課題について話し合うことにつながり、園内研修が充実してきた。

## X. 北園幼稚園

### 1. 平成30年度の基本構想

#### (1) 教育理念や使命

ア 青森山田学園校則「誠実・勤勉・純潔・明朗」のもと、幼稚園教育要領の内容を踏まえたうえで、北園幼稚園の教育目標が達成されるよう、教育計画や教育環境の充実に努める。

- ・子どもの興味関心を大事にし、主体的な活動ができる子どもを育成する。
- ・多様な体験を通して豊かな感性を持つ子どもを育成する。
- ・基本的な生活習慣の身についた子どもを育成する。

イ 園児一人ひとりの育ちに合わせた丁寧な教育を行い子どもの気持ちや要求に応え、子どもとの信頼関係を築く。

ウ 子ども対保護者、保護者対保護者の信頼関係を深め合い、さらには小学校や地域住民との連携を通して教育の場の拡大を図る。

【実績】・月に1回の職員会議、週1~2回の打ち合わせと共に、学期末ごとに教育計画、教育環境の見直しを行い、教職員間で子どもの発達や興味関心について共通理解に努め保育に当たったところ、子どもたちの中に教育目標が浸透してきている。

- ・学期、行事ごとに保護者アンケートを実施し、保護者の意見や要望を聴取して意思疎通を図ってきたところ、保護者との信頼関係を築くことができた。

#### (2) 組織改革計画

ア 呉竹幼稚園、螢ヶ丘幼稚園、中学高等学校と連携を図り、青森山田学園の一員であることが自覚できるような取り組みを行っていく。

イ 縦割り保育を取り入れ、異年齢児のかかわりが深まるようなクラス経営を実践する。

【実績】・青森山田高校での合同サッカー教室や学園ラリーを通して、青森山田学園の一員であることを自覚することができたようである。

- ・縦割り保育を取り入れクラスの枠を超えて子どもたちがかかわりを持つことができるような教育環境の設定を行ってきたことで、主体的な行動ができる子どもたちが育っている。

### 2. 教学に関する計画

#### (1) 志願者・入学者獲得の計画

ア. 未就園児教室の充実に努める。

- イ. 子育て支援事業による未満児（2歳児）の受け入れを行う。
- ウ. 在園児保護者を通じて入園者を募る。
- エ. 高校・大学等との連携を図り、青森山田学園の一員であることを周知していく。
- オ. 広報活動の多様化を図る（メディア活用、チラシなど）。
- カ. ホームページ、フェイスブックの公開と情報の頻繁な入れ替えを行う。

【実績】・未就園児教室で親子体操教室を行った日は参加者が多く、関心が高いことがうかがわれる。

- ・ホームページ、フェイスブックの更新に努めたところ、見学者や入園希望者の多くが閲覧しているとのことであった。更に工夫をしていく必要がある。

## （2）教育内容の向上目標

- ア. 集団生活を通して協力し助け合う喜び、他の人に対する思いやりの心を持つ子どもを育むよう努める。
- イ. 社会や地域の実情とニーズに合った教育が実践されるよう努める。

【実績】・縦割り保育を取り入れて3年が経過したが、友だちと協力し助け合う喜びを味わうと共に基本的な生活習慣の確立面で著しい成長が見られた。

- ・動物との触れ合いや野菜の栽培など自然との触れ合いを通して命の大切さや思いやりの心が育ってきている。

## （3）教職員研修計画

- ア. 教職員の資質の向上のため、研修会への参加を積極的に行う。
- イ. 安全対策、幼児の健康や発達、教育の実践等について、共通理解を図るため園内研修を充実させる。

【実績】・外部研修会への参加、園内研修の実施により幼児の発達理解に努めると共に教員の自己研鑽に努めた。

- ・外部研修会
  - 青森県私立幼稚園連合会教員研修大会
  - 青森県私立幼稚園八戸地区会教員研修会
  - 十和田市私立幼稚園協会講演会
  - 上十三保健所研修会
- ・園内研修
  - 研修会への参加報告
  - 指導計画の見直し
  - 教育計画、教育環境の見直しと話し合い

## XI. 螢ヶ丘幼稚園

### 1. 平成30年度の基本構想

#### （1）教育理念や使命

- ・機会をとらえて、保護者に教育目標について話したり、園内に掲示したりするこ



とで、園の方針を理解してもらっていることが学校評価からもうかがわれ、様々なことで協力してもらうことができた。

- ・青森山田学園の施設・人材を活用することで、意欲的に活動に取り組むことができた。特に、高校生や大学生との交流を喜び、憧れをもって活動に取り組むことができた。保護者からも、サッカーやスキー等青森山田学園関連の活動が充実していることが高く評価されている。

## (2) 組織改革計画

- ・1月より転入园児4名を含めた園児数は、  
年長：5名、年中：9名、年少：1名、満3：4名、計19名（広域入所2名含む）、  
利用定員区分を「～15人」で運営。

## 2. 教学に関する計画

### (1) 入園志願者獲得の計画

- ・未就園児教室のチラシ配布区域を拡大したことや体操教室を月1回開催することで、昨年度より参加者も増え、毎回15～20人の参加があった。しかし、本園の教育活動に魅力を感じてはいても、通園距離が長いという理由で、入園に至らなかったケースが3名ほどあった。また、母親の就労に伴う送迎等で近隣の幼稚園を選択したケースもあった。共働きの保護者対応をさらに検討していく。
- ・2歳児の入園希望者については、満3歳まで入園を待ってもらっている状態である。

### (2) 教育内容の向上目標

- ・週1回の体操教室や縦割り保育を教育課程に位置付けることで、体力向上が図られ、思いやりや信頼感などの情意面でも成長が見られた。
- ・縦割り保育での話し合い活動、制作活動後の発表活動など言葉による表現の場を多くしたことや、充実した体験活動をすることで話すことへの抵抗感がなくなってきた。次年度も引き続き取り組むことが必要である。
- ・挨拶をはじめとする基本的な生活習慣の定着に向けて、スモールステップで「出来るまで待つ」ことを心がけ、取り組んできた。今後も、家庭との連携を図りながら個々の子どもの自立に努めていきたい。
- ・「教育支援に関する調査票」を提出した子への対応は、保護者、関係機関との連携を図り、情報や対応の仕方を共有した。保護者に寄り添い、個に応じた保育を心がけることで、子どもや保護者の相互理解が深まった。また、他の子どもの保護者の協力も得ることができた。

### (3) 教育研修計画

子ども主体の活動がなされるような展開に努めると共に、教員の自己研鑽に努めた。

#### ○園外研修

- ・青森県教育委員会主催研修会（教育課程）・・・ 8月
- ・青森市私立幼稚園協会主催教員研修会・・・ 8月、1月
- ・青森市主催教育施設職員研修会（特別支援）・・・ 5月、11月

- ・青森山田学園幼稚園保育園合同研修会 …… 8月
- ・全日本私立幼稚園連合会主催東北地区教員研修会・岩手大会…10月
- ・青森山田学園寮監・校務員研修会…9月

○園内研修

- ・研修会への参加報告 …… 8月、職員会議時
- ・指導計画の見直し …… 7月
- ・指導要領、育てたい「10の姿」 …… 8月
- ・保育内容、指導、行事について …… 8月、1月